

所属・資格 中国語中国文化学科・教授

申請者氏名 青木 隆

研究課題		中国清朝ムスリム学者・劉智のコスモロジー（その7）
報告の概要	研究目的 および 研究概要	清朝のイスラム学者・劉智『天方性理』の訳注を作成しながら、その哲学思想の構造、アラビア語・ペルシア語原典との比較検討、イスラームと中国思想の両者を可能にするような劉智思想の基本的な枠組みを解明する。 劉智の1世紀前に活動した王岱輿のイスラームの漢語翻訳意識を示す「借用」の思想について、劉智との比較を念頭において研究を進める。
	研究 の 結果	一昨年度来、アラビア語・ペルシア語の研鑽を積むことを継続している。その目的は、アラビア学専門家の指導のもと、非専門家の自分が自ら古典アラビア語・近世ペルシア語思想文献に取り組むためである。同時に、共同研究者であるアラビア学専攻の仁子寿晴氏（京都大学）の井筒俊彦の英文諸著作翻訳を中国思想研究の立場からサポートし、訳著『スーフイズムと老荘思想』刊行を実現した。また、14世紀の紀年を持つ高麗人ラマダーンのアラビア語・ペルシア語・漢語併用墓碑についての矢島洋一との共同研究を発表した。
	研究 の 考察 ・ 反省	王岱輿の漢語イスラーム思想は、漢語でイスラームを表現するために、伝統的な中国思想用語を用いている。それを王岱輿は「借用」と称している。王岱輿の「借用」の実態を研究している途上である。王岱輿の漢語表現中に登場する明確な中国思想ターム以外に、タームにまで練り上げられているわけではないが、王岱輿に先行する中国の思想文献に頻出する言語表現が存在するようである。これらについて検証を進める必要がある。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。  青木隆・矢島洋一「至正九年高麗人ラマダーン墓碑銘」『中国語中国文化』第17号、2020年3月（pp283-293）